

朝夷巡嶋記

第七編

五

春

庫書	6	架號	2
		番號	10
		冊數	40

7
40
75

~ 13
3093
35



吉田屋

朝夷巡島記全傳第七編卷之五

東都

松亭金水編輯

續輯第九

奸計彌齟齬般城酷吏
天誅直臻隱毒報

吉田屋

是災妖の善政小勝を夢怪の善行小勝をとりぬ。是天地の定理なり。然
 ともども時としてその變もまた無と能わぬ。朝夷うも忠直みて。マ一点の
 過るれも。浮雲天日と覆ふ小終。一霎時その明と暗まんとあり。再説當
 下阿武隈大夫の時直がとむの果ると俟て。一坐の人と袂分る。呵とこ
 ろち笑ひ。傳えきく朝夷大人の器量骨柄衆小勝も。爰氣運まじく忠
 勇仁義の人なりと世あり。這面始めて見えしとあり。いふふ人の噂
 差つて天晴るる武士なりと心小感ト漫小恐と。思ひつらしむ。一件の

昭和九年
七月三日
出版

と小於て吾とぞ死。愚鈍の者ども忽地心方そのせしむる。まご青春
 在まごまご。酒奥のう人小戯言と宣ふも妨あじ。然ると頼み従ふざるにて。
 對身小足らぬ婦女と縛め。責るまも大人も。將そまごの威嚴小惶て。
 胸の脹ら一堪へせん。まごあ忍び難くふ。吾も怒るまごみと假て害さんと
 する。まごも是怒るまごの鉄盾が。妹るまごの難頼難問在下まご口と禁とん。
 突捨らまぬ所なり。その怒るまごより道と小。まごよりまご宣へどよくあてもん
 り人。金盾矢藤五と賊の射首がの修羅五郎が二の老と。既ふの
 地と逐電る。往方まごまごの時ふも。まご国にえより東山東海。その他
 諸小人象のて。嚴かく探り索めよ。觸示れさる罪犯人その妹とる處
 女と。何の故ふ家小養ひ。且時直の側室とまごまご。まごの都て逐形る死。
 作と言といまごまご。思ふ小怒るまご心小。従ふぬとめて縛めらまご。

其索脱て今あて。明地小緯と言とふより。深く憎を重罪する。矢藤五
 が妹とのひ。且まごまごの覚えもなき。空言まふらちて。罪まひのつん心ふ。开
 い大人小も似合。まご比怯の挙動傍痛。今日檢断のその場あて。知縣
 と始め農夫們と。集會て仁義の道と説き。言下小諸人と服させ。小実小
 凡人の及む所。る得い大人と称する間も。婦人と侮り言と煙て。その身
 の罪と通れんと。計技のまごいと穢し。まごの仁義の大道あや。まごのまご何
 まの巻。何まの扁ふるまごる故事を。博識強記の朝夷大人が。奇鏡の聽ま
 願りけれ。猶まごも双びる。明智の人といえん。孰れ明智でなれ
 めのゆん。飽まごを嘲ける言葉の端時直扇と半閑きて。阿武隈の口小
 却あて。まごの醉愚。まご但まご。物狂ひふ。覚束まご。身の小際。まご貴
 人へ對して。无礼の口綻。其処速小退るまご。朝夷大人と。何とまご。孫倉

よりの使則君の名代されば任意道理不校いざる。とありとも吾が詰り
責べきとあはれ凡そ下とて上と学ぶ。和漢古今の通受なり此頃強金の
相識仁より吾が書翰と贈と越さるその文面と圖とる君は只管放逸不
募りひて色と愛安達景盛三河へ下しその愛妾ある世尊と奪ひて
左右侍らし。昼夜遊真做し今ふわれ景盛が婦参りるべしとる
べし。と心ある人な小汗と握らぬものじと。実君臣の貴族ふわいての理の
まご勝る所あり。既三河の草賊と。一戦小切平らげ。日まを凱陣せし
処小妾の居わば景盛のその家僕とせめこまを亂さふ世の風さあは如此と
あり。と。さて景盛大怒り。相恩の君なりとも。人倫小闕するは奉動弥
相違なき小於ての怒と奉らんと憤る。その由頼小言えし。君の深く嫉
ませり。且近臣多し勸め小よる。景盛追討せべきの結構景盛はより

新

その由とて尼の臺の館へ参り。只管秋心訴えし。尼君憐れしと思
さして安達が郎へ。とせり。使とて柳管へ安達の父祖より旧功あり。
然る何の罪とせり。処もなきと追討せべき。結構さふその意と得を速小
止まり。人備まこ強て討んとする。まが吾身と討てその後小討り人へ嚴る。
尼の臺の館は。柳管も力あり。直軍旅と罷る。若尼の臺よりせり。
あまの丸珍事の出未べし。実小浅増き世間なり。具小怒れ越さる。朝夷
カ称もその露臣。且君の名代なり。丈夫小做ひる。人君も。臣
と。吾も。も。縁倉殿の同。内小あり。遠臣も。親し。とて。
古風と守り。今時の流行ありと疎り。今この大人が人道小闕するを
深く責ま。行ひ弁一吾君と責ふ似て。善ら。これ勸心の人より。口と
嚙も。あること倍らゆ。然あは。や岩瀬羊瀬然あは。や阿武隈

と。左右ふとせ朝夷と。嘲と褊たる言葉の端々。性急なまぐら及びびる。その口と引裂きまんと。腸きも沸やく。鬢髪髪逆ぎら白眼つらう。妻時退きて是と思ふ。渠も酒與ふ乗じうとも。貴族の卑の差別あるべし。然ると斯まを辱うまひうの氣の身うて虎の鬚と。舐るふも一挙動あると。直に怒りて縛と起さば。その虚不乗て人と集令。吾と害して坐の喧嘩。汝もあざむい酔狂ひて人と過めんとあつふより。餘多る斯のぞらなど。あれぬると言ふる。準備とあまごり。兎も角も是のこも。吾身一己のこめて。任意死をともそれまをり。今時直ぐらうと聴ふ。安達が妾と奪ひ捕る。君寵愛を傲しう。安達其う及び恨しりして嫉まも。既軍勢とうむけて。渠と誅せんもの計らひ。全くそまが虚言のまごり。言語絶する。一挙動。世々も洗ふなり。うを假令いする。垣間見めて。君の愛をせうとも。迎居これと

強て諫めし思ひ駐まりるべし。然る小君の悪と助け。天下汚名と流す。是中野以下の小人も。諂諛とひの計らひかん。嗟痛きまごり。此と彼と思ふふつけて。人心奈と右幕下の創業あり。孫倉の竟不哀。あんと。秋きても猶餘とあり。と只管歎息せまごり。怒れもまごり。撓むりう。思へ渠もが死後の雑言。あまごり。釋さんと。直此方ふらち對ひ。髮城姓阿武隈太人元礼。あつと。ありのる。拵まごり。明智と。何者評する。明智は遠く吾及むねど。人の妻妾と誑し。まごり。綱ど。然るを媼婦が逆形る。まごり。舌頭と誠と。詞の中吾と穢。柳宮安達が妾と奪ふ。虚実のまごり。吾知らねど。そのまごり。朝の条。を以て奇怪なり。汝多る多くの苞苴と受。美田と以て瘠地不換へ。夫より既不事起。まごり。や擾乱の端と開く。その非道ある。挙動あまごり。後日の維と慮る。と。一点のまごり。あり。顔不。媼婦と語りひ

吾これとく非ひぎの族うぢ小こ陷おとさんとと。言語ごんご小こ絶たえるま白痴ちやうどもら。汝なんぢといふ争あそひをて。吾これと陷おとさんと欲かりまるとも。吾これ既すで小こ両眼りやうがんありて。その面魂めんこんの不良ふりやうと知しる。既すで小こ両の耳みみあまま。言ごんご下くだふまと怒いらせて。その虚きよと解とひんの計けい謀ぼうのまね。さままま汝なんぢ等らの姪婦しやくふ俱とも小こ搦なめて將いて飯いへ。公こう問もん所しよ不ふ於おて。是非せひの公裁こうさいと請うけんと。勿な論ろんるらのまぐら。駿城しゆんじやうの豫よて北條きたじやうのふ二に百ひやくのふ愛あらまりまのまうま。汝なんぢ等らのまぐら。罪つと不ふ陷おとさま執権しやくけんのままま悔くとかりらぬ。吾これ直道ちやくだうと好このむま。との人ひとも。執権しやくけんの君きみの外戚ぐわいせき殊こと不ふ往むか昔むかし右幕府みぎまくふの時ときよりま大だい功こうあり。用もちかも重おもきま其人そのひと小こ恥ちとありま何なんふません。殊こと不ふ在ありま下くだの君きみのま近ぢ人ひとと正ただの職しやく小こあま。這こ回へハま餘あま多おほき君きみ命いのちふまのま檢けん断だんのまらんど。支しまま不ふ濟げのま他たふま。何なんとう穿うち正ただあり。とが智ち不ふ誇こるまの心こころあまん。元もと来きた吾これ性しやう急いみま。聊しか非道ひだうとまれま。牙こ不ふ抱かまらぬま。忍しのびがくま思おもふま。況まての身みと陷おとさんと。計けいらまりまの

諭いふま。如何いくまと声震こゑふるりて。哮さけままるまその景勢けいせい絶たえまるま小こ引ひりて。さまの怖おそろろくまえまけまるま。朝夷あさひら礮ひょうと白眼びやくがんつけ。汝なんぢとをまやま老らう老らう毛もうとま。女にままぐまもま忽たち地ちふま。その非ひをま知しりて陳ちんぶまるま。実まことと告つげて死しさんとすま。その心こころ底そことまくま。感かんとま人ひとの將死しやうしさんとまま。言ごんごと善ぜんと称なへまるま。その口くちふまもま乾かぬま。表へう裡りをまりま。これのまま。這こ回へハま。許ゆるがま。尾び尾び筆ひつ龍りゆうをまと怒いられま。怒いられま。左ひだりのま小こ髻げんとま。茂しげ矢やとま。おま二に言ごんごとま。嗟あなやまと吐つびまてま。其その處ところへ倒たふれま。これの祝いてま。時とき直ちやく阿あ武ぶ隈かい大夫だいふ岩いわ瀧たき羊やう瀨せ一般いぱん小こ破やぶ發はつ狼らう藉せきをまと刀たう不ふ小こままとま。膝ひざ立たるま。直ちやくせま。時とき直ちやくのま後あと方むかと向むかきて者もの共とも未まままとま。のまよりま早はやくま。應おうと回くわい答たてま。豫よて儲たくらけま。一いち味みの諸士しよし開あけま。間ま違ちがひまと隔くわ紙しとま。一いち度ど小こままとま。蹴け披ひきてま。むまと朝あ夷いがま。前まへ後あと左ひだり右みぎ小こ衝つ立た鬼おにとま。去い来きた縛しばめまの繩なかまれま。呼よべま。詰つめ寄よまま。朝あ夷い倍ばいとま。祝いかま。吾これ小こ何なんぞの咎とがあまりま。縛しばままんとま。奇き怪かい至し極ごく傾かたまま。太た

らむら辛き目えせん。と鑼小弁一声たり揚て。罵るる小怖とやまけんり
 得小左右より寄属を。下時直立か。旁らとて猶縁を。倘惶しくい
 愈さち退き。比怯るるいと。励まと言葉。まご畢らぬ一人。俵く傍て朝
 夷の右の腕と丁と把る。朝夷頰より拂ひ。突出を。暮小突る。膳此で得
 まして倒れ伏を。繞て鬼を。膝小引敷き。まご腕と揪る。ゆゆえん。控
 と抛まば並べ。折敷の上。平張伏して。大蛇やうる。浅盤の中。春蠶ささう
 そ。容へ。鯉小あ。ねど生作。迹う。来るまご抛ち。野居小頭と打。あて
 そのま。作及りのも。有り。う。得の大勢。容小忍ま。傍へ傍付。は。朝夷の従
 僕。その物音と。すつけて。何事。う。やと。ま。あ。う。間の隔紙。罔んとする。小。縁て
 期。あ。う。と。る。れ。後へ。銚柱。緊と。う。て。推。ども。曳。ども。動。う。ぬ。る。う。突。の方。へ。入。さ
 ず。う。る。う。ま。置。く。と。罵。う。て。その。容。と。窺。ふ。の。も。再。説。懸。城。時。直。い。思。ふ。小。倍。う

朝夷が勇力烈あ。く縁て。荷。擔。人。ふ。と。語。り。ひ。お。え。る。部。下。の。甲。乙。七。八。人
 抛。除。ら。し。む。移。り。小。休。ま。れ。て。適。息。あ。る。り。か。と。も。春。蠶。く。の。ま。物。う。い。ひ。得。ま。半。い
 死。し。う。る。で。く。る。れ。ば。こ。も。秘。心。中。忽。地。小。五。分。の。怖。と。生。下。の。勅。る。と。仕。出。して
 一家の浮沈。その期。小。究。ま。う。る。と。思。ふ。り。の。う。休。止。さ。小。あ。う。る。れ。ば。阿。武。隈。以。下
 の。の。の。と。も。あ。倍。と。駭。眼。あ。う。り。の。の。と。も。い。え。ん。佩。る。刀。子。う。る。と。引。抜。き。朝。夷。目。が。け
 切。て。か。る。心。深。う。と。朝。夷。も。同。く。刀。と。抜。翳。し。汝。技。者。何。等。の。故。小。絆。と。巧。み。吾。を
 して。死。地。小。陥。ん。と。す。る。ぞ。避。莫。う。ま。も。ま。ご。二。個。の。猛。者。と。称。ら。う。と。な。と。東。ね。と
 ことと俟ん。將。細。首。う。ち。落。て。修。羅。の。巷。の。導。き。せん。の。い。ま。り。早。く。發。矢。と。研。る。
 時。直。ま。ご。受。流。し。友。を。刀。小。背。力。と。い。ま。ご。真。甲。木。座。と。柱。を。太。刀。と。右。へ。う。ら。朝
 夷。の。ま。ご。う。伸。て。時。直。が。左。の。膳。と。劈。刀。う。當。下。阿。武。隈。岩。割。芋。凍。ま。ご。一。容。小。太
 刀。ぬ。き。殿。討。あ。て。朝。夷。が。前。後。左。右。透。も。あ。せ。砥。研。て。か。る。と。受。亦。乃。更。ふ。と。も。せ。ん。

身と遠巡て大喝一声。仇等が耳の根貫ぬくを。宛も奔雷の頭上も墮て。瓦屋も毀る。斗もるれば。足も麻木。膽縮も。五臓も汗と流す。この敵。又向ふ術と知る。朝夷太刀と把直して。三打三打。斬りて。阿武隈岩。芋粥等。首も宙へ落て。この時。死もせず。膝の傷も。滾るとして。滴る血。泣く苦。あがく。是と祝や。や計策の。悔。此期。猶今の惜。斯て。朝夷が。頭て首と落せらん。死。うる真似とする。若と。俯して。疼を。堪へ。息なき。如く。朝夷と。一。勢。仇等と。刺。四を。今。火の消。如く。何処と。人の氣勢。は。然る。僕等。何方。何と。居らん。の。物音の。噪。き。出。来。ぬ。不測。と。次の。間。其。餘。間。毎。と。窺。ひ。つ。る。彼。処。不。言。声。せ。え。る。と。往。て。往。る。果。を。隔。紙。の。後。柱。と。堅。く。鎖。して。在。と。

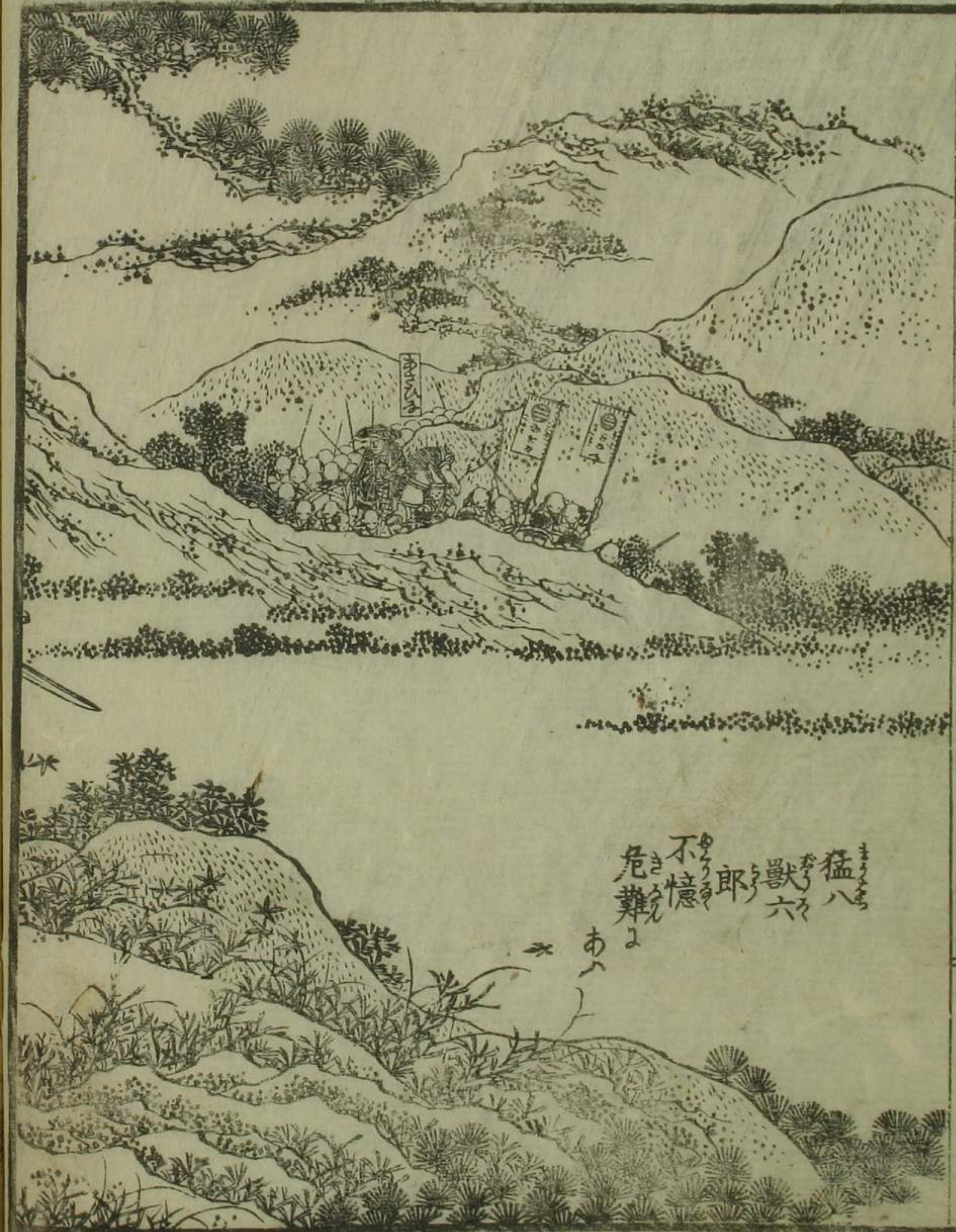
つつけ。引抜て。剣。と。う。り。開。け。僕。等。の。主。が。恙。なき。顔。祝。て。大。声。に。歡。び。を。向。より。交。つ。太。刀。の。音。の。餘。余。の。噪。も。さ。さ。と。思。ふ。頼。系。ら。ん。と。存。る。か。突。へ。入。る。口。こ。い。る。鎖。と。更。も。閉。む。元。来。の。家。の。案。内。と。知。わ。れ。心。す。ず。も。黙。止。つ。お。ん。上。の。案。ト。す。小。を。事。小。在。と。飲。む。と。異。口。同。音。の。ひ。け。れ。朝。夷。の。うち。点。頭。仔。細。あ。つ。て。ら。の。家。の。主。人。新。城。四。郎。時。直。と。始。と。て。阿。武。隈。大。夫。と。岩。淵。作。理。及。び。芋。田。莖。六。の。他。の。吾。の。名。と。不。知。る。校。者。不。意。ふ。對。ひ。る。因。り。或。ひ。の。抛。つ。け。切。伏。せ。て。半。生。半。死。の。者。の。あり。ま。す。死。う。る。も。せ。く。る。く。ば。吾。既。に。諍。論。と。法。め。ん。と。使。節。小。を。か。騷。擾。小。及。び。鎌。倉。の。へ。對。し。て。言。解。術。も。る。た。り。の。う。り。縛。の。あ。ふ。及。び。止。事。と。得。る。う。り。これ。の。分。解。小。腹。か。き。切。ら。ん。と。覺。悟。せ。し。ま。と。熟。と。思。ひ。く。を。吾。の。所。で。今。と。隕。さ。ば。酒。與。小。衆。ト。假。初。の。喧。嘩。あり。と。人。の。う。り。然。ら。ん。時。の。君。令。の。重。き。

且辨へば。枉き私の怒徴とありて。他と殺しその身も死と不忠不孝の
 徒なりとし。家尊の大人が威とさへ落さん。実不孝の所為なり。一切と
 命と惜むあはねど。二先彌念へも飯。件のうと問注所へ詳し討へ。公裁
 と作がんとき。そまふ就て。彼処る。息なき者。更必要。任意頭。打毀。
 腕。折。ま。さ。り。と。息ある者。悉く。將て。飯らんと。思ふ。なり。竹。多。捕。縛。の。准
 備。あ。り。預。と。未。と。い。ふ。心。得。さ。し。と。雜。人。等。荷。物。と。滅。げ。麻。繩。と。解。て
 各。こ。み。み。纏。り。主。の。後。方。は。引。副。て。彼。処。へ。到。る。思。ひ。き。赤。ふ。染。る。死。骸
 さ。か。く。夥。敷。あ。ん。ん。あ。ふ。於。て。雜。人。等。の。祝。ふ。れ。も。暗。き。身。も。戰。慄。れ。て。
 左右。の。進。む。を。朝。夷。後。方。と。祝。か。り。て。要。ふ。ま。さ。る。雜。人。等。疾。く。索。と
 あ。く。お。せ。と。自。ら。把。て。尻。端。より。ま。ご。息。絶。で。蠢。く。り。の。と。三。四。個。引。縛。し。左。右
 兩。個。と。ひ。つ。提。て。下。僕。等。ふ。遍。与。つ。偕。時。直。い。う。ふ。と。祝。ふ。渠。を。の。始。め。不。怖

虚死して居りし。膳の疵の疼。糸。地。へ。も。渾。身。の。血。泣。残。り。と。思。ふ。斗
 り。不。滴。し。流。し。果。少。の。大。腸。小。腸。も。か。の。疵。口。より。出。る。あ。せ。い。り。疼。痛。小。忍。び
 ぬ。を。早。く。も。夢。の。心。地。お。る。て。吾。も。あ。の。を。叫。び。で。在。り。か。の。時。終。息。絶。し。り。
 これ。お。因。て。朝。夷。の。渠。を。死。骸。と。う。ち。返。し。嗟。過。て。ら。し。這。奴。と。証。拠。と。す。き。第。一
 ろ。と。殺。し。う。ち。の。残。念。な。り。と。誓。ふ。い。い。ふ。と。立。傍。に。る。ふ。強。く。お。ま。せ。を。絶。え。し。
 夫。より。久。あ。く。その。ま。ふ。不。做。し。お。れ。さ。し。凍。の。ぞ。五。骸。に。冷。て。今。更。不。獲。生。へ。き。容。の
 あ。ら。ま。さ。ん。腕。き。奴。ら。と。咳。き。さ。さ。り。ま。出。て。や。と。雜。人。の。荷。物。と。負。せ。又。身。と
 曳。せ。り。既。不。懸。城。が。門。の。ま。く。未。だ。し。う。う。う。後。より。兵。弗。と。弦。音。高。く。一。筋。の
 征。矢。飛。来。つ。て。朝。夷。の。髻。と。颯。と。拂。ひ。餘。り。矢。の。門。の。柱。へ。衝。ま。り。破。穿。僻
 者。よ。と。祝。か。り。ふ。その。親。と。の。定。り。ふ。を。ね。彼。処。あ。ん。と。奏。す。う。う。例。の。殊
 撮。棒。と。右。の。不。把。り。取。て。返。し。と。尋。駄。天。の。荒。さ。り。如。く。踊。り。上。り。と。ふ。ん。と。い。ふ。の

や矢と射損じて。奥へ逃込む者のあり。朝夷逃ぎ逐めて汝が城の即ち。主と討て當の敵と討んと觀着れ健の挙動。と勝負あて得さるへ。傾て返せとひりき。彼者の猶面もく。所へ逃る。朝夷四下。心と配。何方までもと逐蒐ぬ。道なき道なき。暇小矢うち番。兵と発てども。這回心急まる。空ち着て傍へ飛ぶ朝夷をま。顔と。城が家の郎黨とい思ひの外。湯島と汝先頃佐く。令られど。執権の家臣と。下小戮を。忍び。生て通す。再生の恩と報せん。その為。矢と射懸え。執念く。を恨む心。その釈せん。逃く。此處へ。未。深き故由。問れて。一句の答へ。腰へ佩す。刀と。川。物。切て。朝夷例の鉄撮棒。把直して。面。狭。鴨居。低。左右。自在。這。朽惜。その棒。抛。

刀と抜き。渡り。今。丁。五合。合。朝夷。い。渠。搦めんと。命。糶。湯島。一。生懸。今。腕。疼。揮。終。聊。猶。湯島。目。受。雷。大。力。雙。の。朝夷。太。刀。の。支。真。甲。未。塵。ふ。ち。碎。く。倒。ま。あ。不。於。て。朝夷。い。う。る。故。湯島。の。家。不。藏。ま。の。人。夫。量。知。さ。ね。ま。の。他。不。忍。び。居。て。不。意。と。怒。ん。と。す。の。の。あり。や。と。ま。う。間。毎。と。う。巡。或。は。家。の。迫。り。あ。く。點。見。さ。る。不。奴。僕。婢。女。等。こ。と。り。筒。を。逃。散。を。一。個。ご。も。人。の。居。ら。ね。心。の。安。う。り。嗟。然。と。這。回。の。詮。後。証。拠。と。る。人。死。時。直。及。び。湯島。阿。武。隈。多。會。死。ま。る。と。と。遠。憾。あ。ま。去。未。と。ま。ま。と。再。び。外。の。方。へ。出。る。秋。の。夜。う。長。け。き。と。東。雲。と。な。り。ける。を。朝夷。下。僕。多。と。庖。厨。の。方。



猛八
 勇六
 郎
 不憶
 危難

あは



あは

遺りていんさる小宵小仕立する。飯あり菜あり。火をたき消て湯せいの
なげきど。腹と肥との要あり足りぬ。持此方へ持て来よと。残るる運ませ
つ。主従あつて十分。うち咲ひなどさるる。おや見と日いさ。昇りぬ。
時刻いよとあ所と徐こし去りけり

義漢道路遭災厄
忠膽貫主僕再會

于粵岡田冠者遺腹の旅店の主猛八。腰越獸六郎の両名。属下の
者俱小十人可也。荒川縁の家とち出夜と日不嗣で急ぎまぐと。其道とち
近々と思ひの外。日と重ね。漸く小と陸奥。南部の境不到る。あ
あて人の風と聴ふ。あ四五日前鎌倉の檢断使とて朝夷の義秀とをん
いん人の通らまるといふ。斯といふく相違り。まご其案内の知ら

まとのいど岩城山弘前より南の方とさるる。彼処と作て往んめと。
磐城の山と目的うて。只管道と急ぎける

因ふの陸奥の東山道の大国。往昔の三十六郡。後小五十四郡
小領つ。殊小その境廣うして。王化の達がはれ小より。元明天皇和銅五
年。陸奥越後と裂合。出羽のふと放筆ひとのふ。出羽ふ十一郡。後小
由利の郡と加へ。今はその負十二ある。國高八十七万石餘といふ。但し
諸書と按ざる小。来心く異同あり。陸奥大管五十四郡。五十二郡。東西
六十日大上国。田數四万二千五十七丁。知行高百七十二万五千石。書小曰く
百九十二万石。まご百八十七万石といふ。まご孰も是る。まご知。まご本。文。磐城と
称する。りのい。弘前の南の磐城山といふ。今安壽姫の古跡あり。権現小
崇め祀る。江戸より弘前へ百八十里。その南小ある。といふ。行程のまご詳

磐城平と称する所の磐前郡の内小ありて。江戸より五十五里と云。
 磐城山といふ大殊あり。その地名紛ひ安きとありて。童蒙の云ふ漸この
 倭而ゆくと数日ふして。大野といふ所不到。ぬまのまをすて山家ふと家
 居と云ふ小柱あり。浦曲のまを摸しう繪小煙をさるべく監屋の如く。
 左右の檐へ地ふ着て棟をうりて高うりける。かの神武の詔に賤民に穴小棲
 巢小栖と宣ひしも。今更かりひ出らる。景勢小入といひて。珍らあて立りて。
 家の内とより行る。年十五六の未通女居り。色は黒くと洗染の敷紙ふ
 りのふ似するが。白き麻の衣と云ふ。その裾殊小短うりして。大と膝と頭へ
 さまが異形あるといふべし。古へより蝦夷と称へ父子夫婦の差別あり。男
 女所と同ありと。舊き書小も記されらる。正小是等のことと云。とうち祝ありつ
 行ねどふ。まて五六里と過ぬま。一筋の大河ありて。是より先ハ磐城といふ。此地

ら。高の山家と違ひて。人物ハ陋一けさども。蝦夷と唱あつまであつんえむ。
 只言語ハ鼻小かると。聴て難きとの多う。さて人ハ辛じて。此処までを
 未よりけり。そ彼四郎時直が。館人程の近うるべし。と大河のまこの茶店小
 憇ひとま。容子と尋ねる小更小知りう者も。日影ハ早くと西落て。
 申刻比とも覚れぬ。この大河とやらち渡らん。但し此処小宿とて。茶をて。
 羽立と尋ね往ぬやと。その便宜と討るべし。忽然とて前面小。九人数五六十。
 群と出ま。おのく利鎌竹陰らんと。其外得物と引提て。集ひま。傳
 えき。農夫一揆といふりのや。覚東とて祝居る小渠。此方と信とて。
 腰より各々小竹螺と出りて。吹さる。その音宛然凄まじく。さう折る。選る。
 樹の間小寂然幡幟の影見え。曳と。関と揚つ。押来る人数。数百人。いふを
 猛ハ及獸六郎ハ互小眼と眼とありて。這ハ何事のか。未つん。名小。這ハ磐

城の山論。その檢断。小朝夷大人の末。とんと聽。その檢断のこと。就。斯の如く。騷。さふ及ぶ。丈夫。まこと。若然。らん。朝夷大人の存亡。不。罹。く。斯。て。猶。豫。も。り。く。兒。も。角。も。え。河。と。渡。り。て。岸。次。才。と。聽。さ。も。差。り。ぬ。と。一。臂。の。脅。力。と。助。ぐ。べ。と。傾。小。決。あ。て。岸。ま。じ。到。と。船。や。あ。る。と。人。と。折。り。件。の。人。数。も。近。付。て。口。に。あ。り。や。其。処。さ。る。奴。等。ハ。謙。倉。訛。と。多。と。る。小。朝。夷。が。方。人。あ。て。あ。り。ぬ。べ。若。然。も。あ。る。逸。小。擲。ゆ。て。曳。と。知。縣。の。指。揮。其。処。動。く。と。詰。す。猛。八。獸。六。兩。個。の。勇。い。す。も。騷。げ。る。氣。色。あ。い。う。も。吾。と。朝。夷。大。人。小。由。縁。あ。る。り。の。ま。う。と。彼。人。の。迹。を。逐。て。今。の。所。未。早。の。い。ま。面。會。の。い。ね。い。の。釈。と。知。る。と。ま。何。故。小。彼。人。の。方。人。と。吾。等。と。罵。り。夫。等。の。と。逐。小。語。て。後。小。擲。め。る。と。知。縣。へ。曳。も。為。さ。る。嗟。騷。と。も。農。夫。們。去。来。の。釈。と。傾。り。と。詰。ま。こ。

口。小。つ。る。筋。具。あ。ね。と。城。の。守。護。る。時。直。め。其。外。眼。代。阿。武。隈。大。夫。知。縣。の。岩。淵。芋。田。ま。で。悉。く。斫。倒。一。夜。小。紛。ま。て。朝。夷。と。何。方。と。あ。る。逃。去。す。然。ま。つ。あ。の。ま。の。守。護。眼。代。の。ま。少。於。り。が。吾。們。を。促。し。て。行。方。と。探。し。擲。め。て。出。せ。よ。と。その。分。付。の。嚴。り。汝。等。由。縁。の。者。と。い。は。な。その。俣。の。通。り。が。い。ま。面。會。さ。ず。と。い。ふ。と。開。と。分。解。と。さ。れ。ん。や。傾。小。末。と。然。も。あ。る。逸。縛。し。て。曳。り。く。と。各。小。得。物。と。ち。揮。て。競。ひ。鬼。れ。ば。と。奉。て。ら。者。と。も。卒。兩。ま。せ。と。你。達。も。粗。少。知。ぬ。ん。朝。夷。大。人。の。信。美。の。士。等。故。り。夫。等。の。人。と。殺。し。て。の。地。と。立。退。く。と。做。さん。と。小。仔細。の。り。ら。ぞ。や。你。達。精。あ。き。釈。と。あ。も。任。意。守。護。眼。代。の。下。知。の。あ。り。と。も。罪。の。多。く。途。行。人。と。擲。ん。と。鳥。許。あ。る。小。限。あり。其。外。除。て。通。さ。る。か。り。と。も。猶。立。塞。ぎ。通。さ。と。是。非。も。吾。と。も。一。個。の。杜。夫。と。阿。容。と。と。你。

達小柄ゆらして曳まんや。元来仇も憾もなき。你達と死と争とふも益
 とするて絶てり。勢ひの自然に因て銘の才と過つ。心ある人のさる所悟
 道と聞けより。と絆と好むの心もさる。面と和らげ説といふ。農夫們
 へ入る。噪き立る僻めく。中も年若き者ども。そらの言葉と耳も
 けを賢とす。小い道も。避んとする。と道さんや。兎角の言と費さん。打
 倒して搦めよと。倉一容小のひ言と。矢庭お打てか。この。這い。状。去。未。然
 ら。逸て。汝。首切並。道と聞きて通りん。者共。準備と後方。控へ。一
 属下のり。の不言。猛八其処へ。踊る。と。獸六郎。の。隔。限。も。あ。ら。ぬ
 彼大勢。も。如何。小猛。と。倉切。拵。ひて。通りん。と。及。び。ど。と。
 且。屠。下。小。過。あ。ん。若。今。二。面。言葉。と。場。一。宥。めて。と。通。り。ん。と。い。ふ。間。も
 あ。る。農。夫。們。既。小。間。近。く。進。ま。う。打。倒。え。ん。と。失。ぬ。不。ふ。言。葉。と。以。て。悦

大。術。も。猛。八。の。腰。も。二。刀。抜。き。も。先。進。漢。士。の。小。鬢。と。下。と。破。破。破。破
 切。き。と。言。言。と。狂。ひ。廻。る。迹。小。統。き。数。多。の。人。と。嘈。と。し。声。存。一。透。も
 何。せ。ま。せ。む。て。か。る。獸。六。郎。も。属。下。の。者。も。這。一。大。事。小。及。び。り。斯。る。と。各
 小。腰。の。刀。と。引。ぬ。き。群。中。へ。割。て。入。誰。と。敵。も。定。め。ぬ。減。多。打。小。薙。ぎ
 ま。つ。と。深。瘡。と。負。へ。あ。け。ま。ど。も。或。ひ。肩。先。腕。首。毀。所。き。り。の。疵。と。う。け
 恐。ま。と。退。く。の。の。も。あり。ま。と。此。容。小。も。見。懲。せ。ば。と。引。捉。て。と。柄。お。せ。ん。と
 鬼。立。の。の。も。あり。海。物。で。刀。と。う。け。雷。つ。ま。竹。槍。と。う。伸。て。突。か。る。と。いと
 急。る。り。ら。小。於。と。猛。八。及。獸。六。郎。と。様。の。多。練。小。渾。才。と。傷。と。無。れ。と
 遺。さ。る。者。の。腕。の。力。い。われ。と。試。合。小。馴。と。ぞ。或。ひ。肚。肩。先。と。突。破。ら。し。て。痛。お
 弱。其。処。へ。平。張。の。の。も。あり。農。夫。們。の。ち。勇。お。て。鬼。と。その。威。勢。侮。り。が。く
 人。え。け。と。猛。八。と。小。虎。鳥。の。如。く。翔。と。巡。と。倚。来。の。の。と。研。倒。と。と。五。人。可

獸六郎もあつと先途と脅力と究めて切たる威勢將小奮然とれ農夫們の
 辟易しく。要時後方へ引下り。田に聊解さるる。兩個も息ありと吻き傍と祝
 する。去来今一撃目小物とせ。透と窺ひあつた場と去らん。渠等不便の景
 勢あることとと救ふの暇も後小と再詮方あり。続きとと猛ハぐんかへる
 不ハ獸六郎も心得たりと属添めて去らん。早むる足元農夫們ハそれ
 遁する。とと群と押取捲と猛ハ顔と小斫拂ハ太刀風小大く逆傍湯間
 と候ひ一町半。走る向ひ小ま。二旗とと捕へよと荒々の人数競ひかへる
 とと也。進へると先ハ走る。兩三個小傷つとと。是ハ小ハと飛遊巡
 中と用けバ湯と也。志と。獸六郎も諸共ハ太刀とら揮と晃れ。威しく
 あつと駆通る。有斯とら。右の方。川小副と二旗の人馬。遙小突也。兩個

と作ぎて是とと。這ハ農夫の神ハあつ。真先ハ幟とと。人数九四五
 十人。その跡ハ弓矢鉾など。携えらる。の二十人頭ハやわん。騎馬二人。の
 餘の雜人此彼合させ。百人可とと。えぬ。土煙りとと。馳来。是ハ
 向ハ農夫等。其所の守護眼代と。言あ。い。の。先刻と戦
 くの勞。咽乾けと湯水と湯を。腹空けとと。飯と啖。不と。筋
 力弱とと。心と。早と。の大敵ハあらんや。然とと。不憶。兵
 書ハ所謂重地ハ入。如何とと。詮方。勢近く傍。吾等一切辨
 入ぬ。とと。鮮と。赦さ。安穩ハ退。尚とと。赦とと。
 命と限。不戦。不終。取ん。足下。思。猛ハ。更ハ。
 覚悟究。景勢。泰然。い。獸六郎ハ。貴所の言葉
 勇ま。勇。誰。斯。と。在。下。思。所謂。旦の死と。怪

猛六郎因らば
朝夷小會合走



んく生と護るの難き成忘は計畧るさ小似り。いふとの小吾も此処未
 朝夷大人小危急と告てその機ふらば一臂と援けん為のさう。然ふ
 親くそのこと。さむとのとも既小交あり。般城以下と斬害して。退まら
 災厄の大あるのあり。大人の命全きや否とのまご。知る小敢る。吾も
 死さば。是俗ふりの約死めて。自他の益さふら。敵と野徑小番来この忠ふも
 あらぶ。さふもあらぶ。天を大丈夫の所為と言ふ。艱難と嘗辛苦と凌ぎ
 一旦の志と。まんとこと。原心は欲け。然つとのとも斯の如く。困る。吾と攻
 小至まら。いう小ゆと。遁ま入術と討この外は。さむ。時名黄昏小及ぬれ。ば
 まづらの河も。小茂る。め。芦茅の中。小身と潜め。か人数と遣過。動静と
 量る。遁ま入。維き。と。や。し。き。倘も。其。処。小。あり。と。曉り。て。千。種。と。搦。分。り。
 索め。る。あ。ら。ぶ。徐。と。岸。も。小。臻。り。時。宜。小。あり。緝。急。さ。ら。ぶ。水。中。へ。潜。り。入。り。て。も

身と遁ま入。貴兄。い。う。小。思。ひ。う。小。とい。ふ。小。猛。八。あ。り。あり。農夫。們。と。討。つ。て
 あ。小。死。る。ん。血。氣。の。勇。い。ふ。自。他。の。益。ふ。さ。ま。然。ら。ば。人。数。の。近。づ。め。間。の。先
 片。陰。へ。隠。ま。入。と。弥。ぐ。り。小。茂。り。する。河。も。の。芦。と。搦。り。て。潜。り。入。る。と。二十。步
 を。り。斯。で。敵。の。末。と。も。争。う。人。の。在。と。ある。さ。ま。這。は。屈。竟。の。隠。処。あり。と。身
 と。屈。め。て。候。う。小。間。ふ。え。や。か。の。一。旗。近。づ。き。う。獸。六。郎。の。頭。と。奉。て。芦。の。茂。さ
 透。間。より。その。行。装。と。う。歌。う。小。這。は。思。ひ。き。や。騎。馬。さ。ら。朝。夷。受。秀。さ。ら
 とい。ふ。小。於。て。言。葉。遠。あ。猛。八。う。示。去。未。と。往。て。對。面。せ。ん。とい。ひ。草。と
 左。右。ふ。分。け。て。急。ぎ。ま。ま。ん。と。做。り。ける。と。か。の。隊。の。人。の。物。音。小。敵。と。や。思。ひ
 とも。ふ。けん。陣。と。う。む。け。弓。把。連。と。信。と。叢。と。白。眼。て。人。の。あ。ら。と。ま。り。景。勢。ふ
 獸。六。郎。の。ま。と。揚。て。各。う。さ。ま。を。麻。忽。あ。ら。ま。五。日。善。心。あ。る。の。あ。ら。朝。夷。大
 人。小。見。參。せん。と。我。子。の。苦。艱。と。せ。り。の。と。先。隊。の。雜。入。と。耳。の。あ。ら。

近傍まふ打倒えんと朱ぬくあまの村妹まきんと矢とうち番ひ弓ひき
 絞るものもわり。西個いのうく大音あげて。笥の如くふみたるふとふ美秀乃星
 とやあへまを容子ありげと澄と踏をり。鞍壺小衝えあがり。かの叢なる人と彼
 こふまや行黒て定るるねど。獸六郎ふよく似たり。然いあまも此をこ渠の
 未へき苦もみ。這い僻目ふてあへけと。渠い僅ふ西三個少も怖るは多た。
 近く招きて言葉とやんと。雜人們と制駐め。その所て退くは鬼南する間ふ
 獸六郎と猛ハい未まの。傾て朝夷が馬の前ふ進ま未と朝夷の眼と止
 めて緊と祝ふ。獸六郎小疑ひま。這い何とて此処へ未ま。覚來を
 よと問うけら。獸六郎の額着て是へ参り。縁故いさるぐの仔細あり。後
 小寛まと言しゆげん。まづそ體小恙多。あみて見え奉つら。夢その思
 りまゆ。筒小風ふおん上と。羨いま。磐城あて大難小遭かひ。とう信偽い定

くふひりゆと。粗虚言ああさるべ。と思ふとさへいへ。如何ふありゆたのひと。
 心と痛ゆゆありと。夜て朝夷うち點頭いふ。筒様さみて。思ひま。磐城を
 らぬ衆くの人と斬害あり。真ふその場で腹きんと。思ひひけと。鎌倉の
 尉刀林のあん身の上ふ係るこやあん。思ひ死ぬふ。海死ま。先
 強倉く立歸りて。緯の顛末やえあげ。鬼も斯も。思ひて。証拠のふ
 搦ゆる。半生半死の侍どもと。雜人們ふ曳ま。せ。磐城とち出さ。け。処是
 るる人。跡と慕ひ吾ふ告てい。吾們を卒士の瀆青木の人民。昨日の
 大人が裁断あて。年来掠め取ま。田畠えの如く。その飲ひと言。さんそ
 その夜磐城へ到る。宿ふ。明と候所。磐城刀林の館ふ。如此
 の騷動あり。這い忠直る朝夷大人と。陥い。事起。ま。これ
 人い。其の真偽と。知ま。と思ふ。磐城阿武隈以下。これ

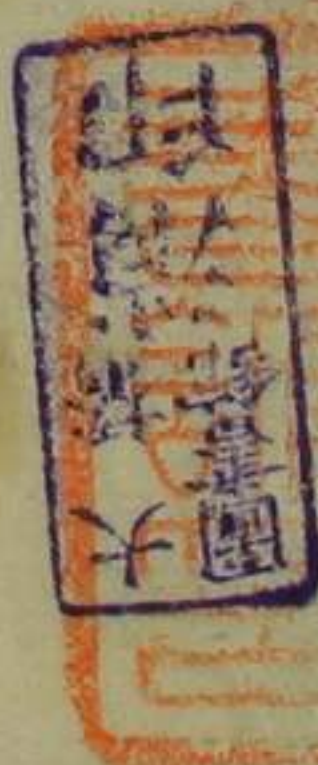
世の酷吏とて人虎の如く怖る。蠅の如く陋あはるれば。その風聞不
 疑ひあり。年来我意不募。民と虐げ。賤室と貪。其の報ひ。嗟
 快きと云ふ。と雀躍して。秋ふり。虎狼不。一といふ。も。録倉の官
 人あり。そ。と殺して。朝夷大人。始終安穩。あ。ま。夫。入。國。と。あ。る。ん。だ。
 若。縛。あ。ら。彼。人。と。守。護。と。そ。の。必。異。と。計。ら。る。思。と。知。あ。所。為。る。と。人。知
 ま。と。此。処。小。居。と。大。人。と。俟。り。け。れ。の。心。然。も。ど。も。當。時。の。人。情。信。実。る。も。
 心。弛。え。開。過。分。る。心。を。然。あ。ら。汝。達。案。内。と。せ。と。先。ふ。と。道。と。急
 ぐ。渠。等。が。親。族。逐。未。也。昨。夜。の。強。動。早。く。も。望。え。新。和。沢。の。守。護。知。縣。を
 朝。夷。大。人。と。討。苗。人。と。農。夫。們。と。驅。催。し。山。と。超。て。押。ま。う。と。そ。の。風。少。頻。る。
 され。道。と。引。ち。へ。て。小。羽。の。白。沢。へ。赴。き。人。然。ら。ざ。い。大。事。不。及。と。告。る。の。を
 猶。信。じ。先。の。所。不。足。と。注。め。て。時。世。間。の。動。靜。と。探。る。ふ。そ。の。い。ふ。所。疑。ひ

あり。あ。ら。於。て。の。族。が。信。実。る。の。う。ち。の。然。り。と。是。る。と。公。利。越。う。の。路。と。小
 羅。所。多。く。嶺。と。攀。溪。と。渡。る。最。悪。獸。多。け。ま。不。虞。の。備。へ。と。せ。ず。ん。だ。
 あ。ら。と。弓。矢。絆。ま。携。え。未。つ。將。山。霧。の。深。さ。及。び。目。標。ま。う。て。の。懐。ひ。と。こ
 一。の。職。と。え。小。准。備。あ。り。其。処。と。う。ち。急。ぐ。と。す。と。秋。の。日。影。の。短。く。て。も。や
 暮。小。及。び。の。さ。そ。汝。が。あ。く。未。と。る。所。謂。い。く。氣。遣。と。向。ま。と。腰。越。獸。郎
 の。荒。河。の。渡。口。小。宿。り。時。り。是。ま。の。始。末。落。る。物。と。う。猛。八。引。合。す。れ。ば。
 朝。夷。馬。より。跳。り。下。り。備。足。下。の。及。ぶ。岡。田。の。冠。者。が。遺。腹。剛。着。刀。称。あ。ら。ひ
 一。の。不。運。あ。り。民。間。小。陷。り。ひ。緣。故。這。回。在。下。不。遭。ん。と。述。と。の。地。未。ま
 せ。り。不。憶。も。大。難。小。逢。ひ。一。の。今。具。小。獸。六。郎。より。美。子。の。好。意。の。謝。す。る
 小。所。の。加。梅。其。夜。の。旅。人。が。齋。あ。る。密。書。之。不。圖。足。下。と。入。入。と。う。を。れ。小
 就。て。種。の。思。ひ。當。と。る。と。も。り。斯。有。い。早。く。從。ま。欲。け。と。時。小。取。て。の。急

考カ小あふ。日中の程より飲食と断とあまの勞きよりん俸ひ今宵山越の
準備小齋を割籠あり。是をて飢と凌ぎりんと卑せ櫃より把却共え思
ふ。今日宵闇多て。路の程之覚束るさ。且此処を休息あり。足下等話
説ゆまへ。まこのめも多あり。去来者も河をこ生る。苦を劫て圓座
ふるせ。ま樹の枝と伐卸と火と焚火と一示。以上その員百人可と思ひ
かりひ山居と割籠と困りのあり。朝夷猛八獣六郎の三個中央の
坐とあま。傾て過去行末の物語とを始めける。畢竟の不會合と後との
顛末のいなるん。緯長けま編と嗣巻と換て解んの。拙著と陋をあら
ざし。尊覧と愿ふのあり

朝夷巡島記全傳第七編卷之五

終 吉田屋 吉田屋



拙鋪累在書籍ヲ鬻キ 近來都鄙一般書房ト 弘通ス且諸
府縣廳或ハ諸先生ノ御藏版アル毎ニ發兌ヲ命セラル故ニ新板
圖書ハ積テ以テ洩スコトナシ加フルニ和漢洋ノ書冊ハ今古ヲ不論
亦以テ備ヘ置ケリ仰冀ハ書ヲ購フノ君子其多寡ニ嫌ナク弊店ニ
就テ御買得マランコナ
文榮閣主人謹白

製本處

前川源七郎

大坂府下心齋橋筋
北久寶寺町北九番地

